

国際比較調査データに見る男女平等社会への発展

芝井 清久

データ科学研究系/ROIS-DS社会データ構造化センター 特任助教

■国際調査データによる国際社会の多様性をつかむ。

文化的背景の異なる国家のデータを集め、その特徴と変化を明らかにすることを目指す。移民、テロなど国際情勢の急激な変化を追い、社会の実情をつかむことが、国際問題を解決するために非常に重要になっているため(空間的つながりと時間的つながりの重要性)。

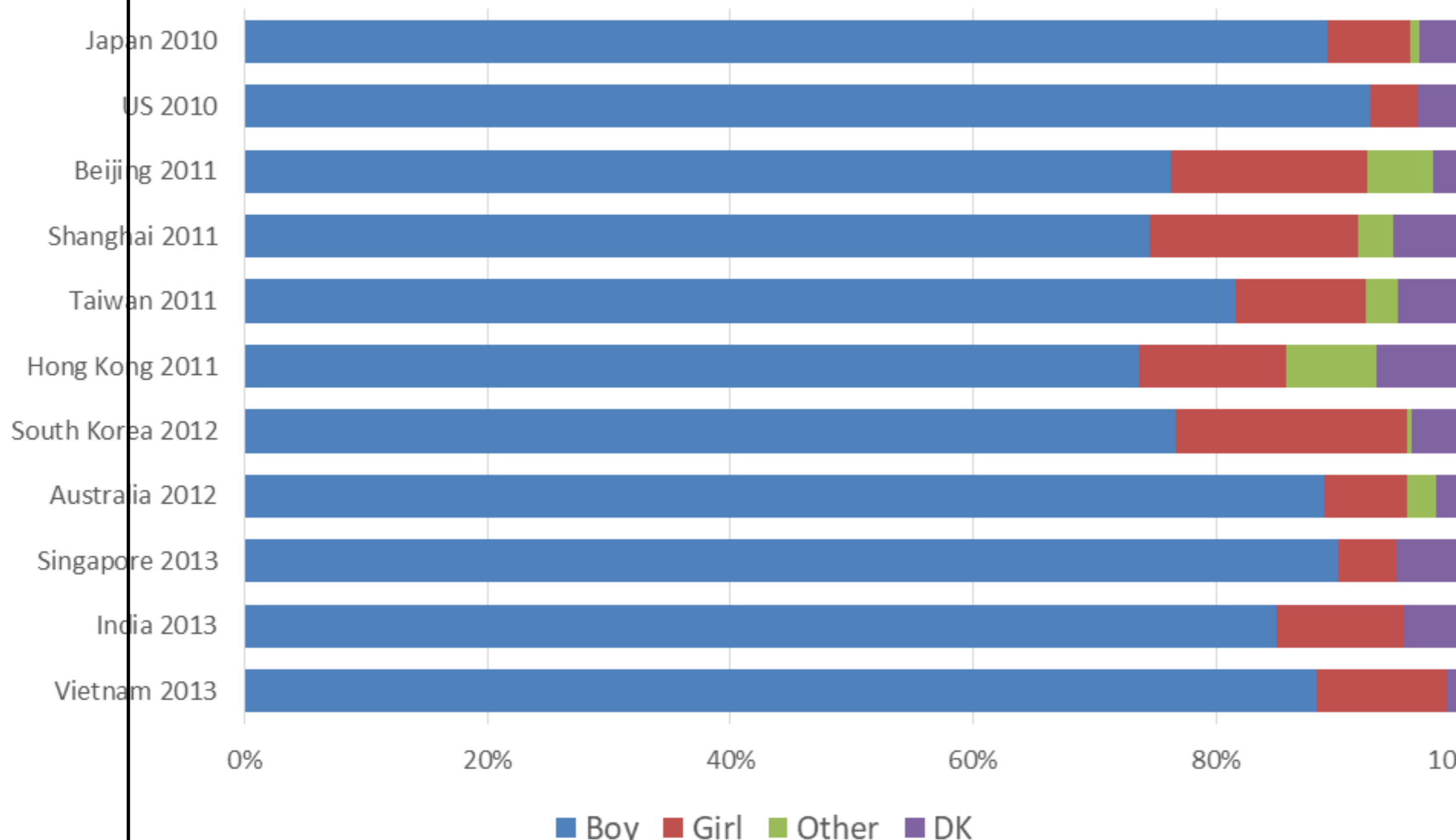
- 国際社会の多様性をつかむためには可能な限り多くの地域からデータを得る必要があり、また情勢変化が著しい国際社会の変化を測るためにも継続してデータを取得することが重要。
- 国際関係論研究はマクロレベルの国家データの使用が主流であり、個人から得るミクロレベルのデータを使用した研究は多くは無い。この2種類のデータを併用した研究方法の確立を目指す。

国際比較調査プロジェクトは、2000年代からアジア太平洋地域の文化的多様性に着目し、多くの国・都市を調査してデータを取得し、地理的・文化的に近い国民の間に存在する類似性や相違点を研究することで、文化の違いにかかわらず共通する価値観や文化の違いに基づいて変化する価値観を見つけ出す。

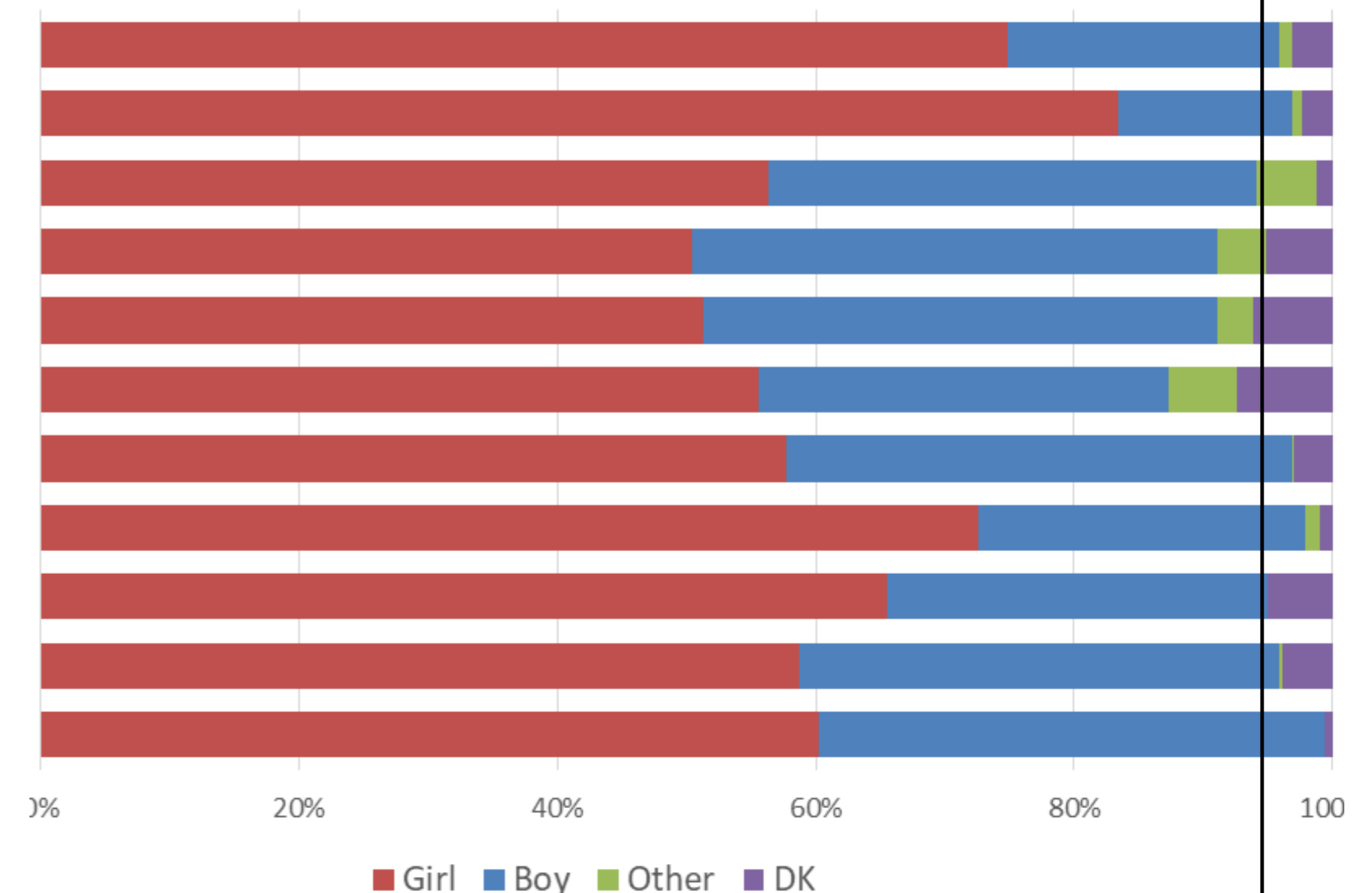
Q. もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに、生れてきたいと思えますか？

1 男に 2 女に 3 その他 4 D.K.(Don't Know)

2010年代の男性の回答



2010年代の女性の回答



- この設問は自分の性別に対する本音を浮かび上がらせている。社会生活において自分の性別に満足しているなら同じ性別を選び、満足していなければ異なる性別を選ぶ。
- 男性は基本的に不満は少なく、女性は多かったが時代を経て徐々に少なくなっていくことが時系列データからはうかがえる。2010年代のアジア太平洋地域の社会においては、男女差別が改善されていることをこのデータは裏付けている。
- どこの国の女性も過半数は「また女に」と回答するものの、各国や地域での差が見られる。各国・地域の社会制度の差が女性の地位や社会的役割にも大きくかかわっていることがうかがえる。